

平成 22 年度（第 4 期） 横浜国立大学
副専攻プログラム「統合的海洋管理学」 募集要項・履修案内

1. プログラムの目的と概要

2007 年 4 月に海洋基本法が成立しました。国の施策として、大学に対しても海洋に関する研究と人材育成が強く求められています。このような社会的要請に対応可能な大学は限られていますが、港湾都市として発達してきた歴史を持つ横浜を本拠とする本学は、海洋関連の教育研究に関して、造船、海洋開発、海岸工学、海洋資源、海洋環境、沿岸域管理、海上保安等の分野で内外から高い評価を得てきました。そして 2007 年 7 月、各部局により分断的に行われてきたこれらの活動を、部局横断的に実施するための文理融合型組織として、「統合的海洋教育・研究センター」（以下海センター）を設置し、同年 10 月より、総合的な大学院レベルでの副専攻教育プログラムである「統合的海洋管理学プログラム」（以下本プログラム）を開始しました。

本プログラムは、科学的な理解と認識に基づく海洋の持続可能な開発・利用という理念と、海洋の国際秩序を先導し、国際協調を促進するという理念の下で、「海洋の統合的管理能力」の習得を目的にした修士課程の副専攻教育のためのものです。本プログラムを通じて、多様な分野の多様な専門能力と、海洋の統合管理に必要な視野の広さを兼ね備える人材の育成を目指します。

2. 応募要件

本プログラム履修者は、以下のすべての要件を満たす必要があります。

(1) 本プログラム履修者

- ① 本学大学院の研究科・学府に在籍する大学院生で、本プログラムの目的に関連した知識・手法の習得を目指している者（* 管理学Ⅱからの履修開始も可能です）
- ② 本学大学院の研究科・学府に在籍する大学院生で、指導教員の了承・推薦を得ている者

[注] 本プログラム履修者には、在籍する研究科・学府での修了要件となる授業科目の履修に加えて、プログラム特設科目（必修）の履修およびプログラム関連科目（選択）の履修と単位の取得が求められます。在籍する研究科・学府の指導教員と十分に相談した上で応募してください。

[注] 本プログラムへの応募および受講にあたっての応募手数料や受講料は必要ありません。

(2) 「統合的海洋管理学Ⅰ・Ⅱ」の単位取得希望者

- ① 上記と同じ
- ② 指導教員の推薦は不要。但し、海センターへ様式 1（履修登録申請書）の提出は必要

3. 募集人員

本プログラムの募集人員は、以下のとおりです。

博士課程前期・修士課程	40 名程度
博士課程後期	若干名

4. 履修登録

履修を希望する大学院生は、在籍する研究科・学府の指導教員と十分に相談した上で、下記の書類を下記 URL からダウンロードして提出してください。なお、電子ファイルを利用できない場合は、センター事務室で配布されている様式をご利用下さい。

(ダウンロード先：センターのホームページ (<http://www.cosie.ynu.ac.jp/>) へアクセスし、「教育プログラム (受講案内)」をクリックしてください)

(1) 本プログラム履修希望者

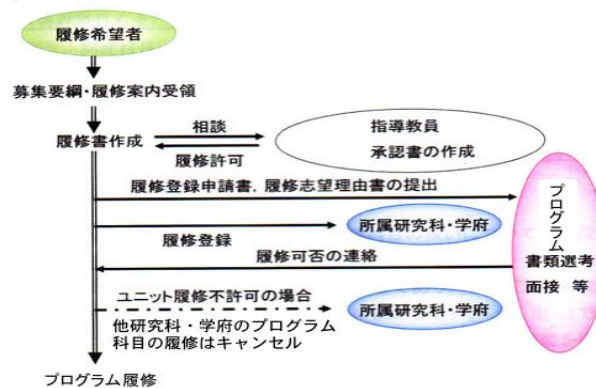
- ① 履修登録申請書および指導教員承認書【様式1】
- ② 履修計画表【様式2】
- ③ 履修志望理由書 (800字程度)【様式3】
- ④ 履修許可証【様式4】
- ⑤ 在籍する研究科・学府での履修登録表の写し (履修登録確認期間中に配布されるものの写し)

(2) 「統合的海洋管理学Ⅰ・Ⅱ」の単位取得希望者

- ① 履修登録申請書【様式1】 (* 指導教員承認書については記入不要)
- ② 在籍する研究科・学府での履修登録表の写し (履修登録確認期間中に配布されるものの写し)

プログラム特設・関連科目の履修登録申請は、履修登録申請書 (様式1) と履修計画表 (様式2) で同時に行うものとします。履修登録は、本プログラム履修計画表への記載と、プログラム履修者が在籍する研究科・学府での履修登録の両方により行うこととします。

- [注] 1. 特設およびプログラム関連科目に関しては、プログラム履修者が在籍する研究科・学府にも、定められた期間に必ず履修登録を別途行ってください。
2. プログラム関連科目の単位は、プログラム履修者が在籍する研究科・学府の修了要件となる場合があります。詳細については、各研究科・学府の担当係に確認してください。
 3. プログラム履修が許可にならなかった場合、応募者に対してその旨を通知します。



5. 応募期間

出願書類の受付は、下記に指定した期間内に、

①指導教員経由の学内便による提出、②応募者本人による窓口での提出、③電子メールの添付ファイルによる提出により受け付けます。

応募期間：4月1日～4月30日、10月1日～10月31日の10時30分～17時

提出窓口：海センター事務室（教育人間科学部講義棟205号室…場所は、要項末尾のキャンパスマップを参照してください）

※事前に在室を電話で確認の上いらして下さい（入口はオートロックです）。

電話： 045-339-3067 メールアドレス： kaiyo@ynu.ac.jp

ホームページ： <http://www.cosie.ynu.ac.jp/>

6. 選考

選考は、応募者の志望理由書等の書類審査、必要に応じて面接等により行います。書類審査は、志望理由書や、応募者の在籍する研究科・学府での履修計画をもとに行います。本プログラムに求められている文理融合の観点や、応募者各人の研究内容と統合的海洋管理の理念の連関の観点から、総合的に選考します。プログラムの履修を許可された者には、プログラム履修許可証【様式4】を発行します。

なお、履修者向けの連絡は電子メールまたは本センターHPへの記事掲載で行います。成績、修了に関する重要なメールを送信することがあるので、必ず各自の ynu メールにアクセスできるよう願います。

7. プログラム授業科目

プログラム履修者は、所属する研究科・学府の授業科目に加えて、プログラム特設科目（必修）およびプログラム関連科目を履修しなければなりません。このプログラム特設科目「統合的海洋管理学」はそのⅠを後期に開講し、そのⅡを翌年前期に開講します。

なお、プログラム授業科目一覧、プログラム特設科目シラバス及び日程表は資料1～3を参照してください。

(1) 博士課程前期・修士課程履修者：

○ プログラム特設科目（必修） 2科目4単位

「統合的海洋管理学Ⅰ」（後期・2単位）

「統合的海洋管理学Ⅱ」（前期・2単位）

プログラム特設科目は、国際社会科学部が開講します。当該特設科目は、プログラム履修者の在籍する研究科・学府の履修単位となる場合があります（各研究科・学府の担当係に確認してください）。

○ プログラム関連科目（選択） 3科目6単位以上

プログラム関連科目は、本プログラムで指定する各研究科・学府が開講します。当該関連科目もまた、プログラム履修者の在籍する研究科・学府の履修単位となる場合があります（各研究科・学府の担当係に確認してください）。なお、当該年度前期に取得したプログラム関連科目の単位はプログラム修了要件として認めます。

注] 資料1に示されている関連科目の詳細は、各開講研究科・学府に確認してください。
また、当初の履修計画表に変更がある場合には、新たに履修計画書を提出してください。

(2) 博士課程後期履修者

○プログラム特設科目（必修） 2科目4単位

「統合的海洋管理学Ⅰ」（後期・2単位）

「統合的海洋管理学Ⅱ」（前期・2単位）

前記（1）博士課程前期・修士課程履修者の場合と同様です。

○プログラム関連科目（選択） 3科目6単位以上

前記（1）博士課程前期・修士課程履修者の場合と同様です。なお、博士課程前期・修士課程で取得したプログラム関連科目の単位をプログラム修了要件として認めます。

8. プログラム特設科目の履修パターン

プログラム履修者は、原則として、第1学年度の後学期に、プログラム特設科目「統合的海洋管理学Ⅰ」を履修し、第2学年度の前学期に、同「統合的海洋管理学Ⅱ」を履修します。また、プログラム履修者は第2学年度の後期に行われるポスターセッションに参加することが義務付けられます。

第4期の受講パターン

年度	2010年度		2011年度	
	前期	後期	前期	後期
標準パターン		管理学Ⅰ	管理学Ⅱ	ポスターセッション
2011年度前期から受講開始の場合のパターン			管理学Ⅱ	管理学Ⅰ* ポスターセッション

9. 修了要件

プログラム修了の認定には、以下のすべての要件を満たす必要があります。

- (1) 所属の研究科・学府の修了要件の充足
- (2) 本プログラム特設・関連科目（上記「7. プログラム授業科目」を参照してください）の修得
- (3) 総合討論への参加
- (4) 修了年次におけるポスターセッション（毎年2月中の実施を予定。内容は各自の修士・博士課程における研究等の内容とそれがどのように海洋と関連付けられるかを発表して頂きます）への参加

本プログラムを修了すると、「プログラム修了証」が授与されます。なお、修士博士の研究等の内容は本プログラムの目的に関連するものであることを推奨しています。

10. プログラム修了申請

プログラム履修者は、本プログラムの修了要件を満たす見込みとなった時点で、海センター事務室に修了申請を行ってください（様式5）。対象者には海センター事務室より、単位申請手続きと終了ポスターセッションに関するお知らせを、登録メールアドレスに配信します。

11. プログラム修了証

本プログラムの修了者に対し、『**統合的海洋管理学修了証**』を授与します。

当該プログラム修了証は、いわゆる資格・免許ではありませんが、本プログラムの修了者であることを証明するものであり、上記の目的に沿った人材育成教育を履修したことを証するものです。

12. プログラムの教務関係事務手続きおよびその他の問い合わせ先

海センター事務室(上記「5. 応募期間」をご参照下さい)

平成22年度 第4期 統合的海洋管理学プログラム

履修登録申請書

統合的海洋管理学プログラムへの履修登録を申請します。

※〈 〉内は該当を丸で囲むこと。

開 始 時 期：平成 年 月

第 期統合的海洋管理学〈I・II〉より開始

氏 (ふりがな) 名：_____ 〈男・女〉

所属研究科・学府：_____ 研究科・学府

専 攻：_____ 専攻 〈修士・博士課程〉

学 籍 番 号：_____

履 修 登 録 番 号：_____ ※センター事務室で記入

社会人院生の場合： () ※該当者は✓を入れてください。

修 了 見 込 み：平成 年 月修了見込み

メールアドレス：_____

※ブロック体で明瞭に記入すること。添付ファイルを含む場合があるので携帯メールは不可。(YNUアドレスを推奨)

緊急時の連絡先電話番号：_____

所属での研究等のテーマ：_____

平成 年 月 日

指導教員承認書

上記大学院生の統合的海洋管理学プログラムへの履修登録を承認します。

指 導 教 員： _____ ⑩

プログラム学務委員会使用欄

プログラム受付日	プログラム履修登録番号	プログラム学務委員会
平成 年 月 日		⑩

平成 22 年度 第 4 期 統合的海洋管理学プログラム

履修計画表

プログラム特設科目		
科目名	履修時期	
統合的海洋管理学 I	平成 年度	後学期
統合的海洋管理学 II	平成 年度	前学期
プログラム関連科目 ※ プログラム修了までの履修予定科目を記入すること。		
科目名	履修時期	
	平成 年度	前・後
	平成 年度	前・後
	平成 年度	前・後
	平成 年度	前・後
	平成 年度	前・後
	平成 年度	前・後
ポスターセッション ※ 修了年次に実施する。		
	平成 年度	後学期

提出年月日：平成 年 月 日

所属研究科・学府： _____ 研究科・学府

専攻： _____ 専攻

学籍番号： _____

氏名： _____

平成22年度 第4期 統合的海洋管理学プログラム

履修志望理由書

以下の点を指導教員とよく相談して記すこと。

- (1) 本プログラムで修得したい知見と将来それをどのように活かしたいか。
- (2) 所属研究科・学府での研究等のテーマと統合的海洋管理の関わり。

提出年月日：平成 年 月 日
所属研究科・学府： _____ 研究科・学府
専攻： _____ 専攻
学籍番号： _____
氏名： _____

※本紙に収まらない場合には，記入スペースは自由に拡大可

平成 22 年度 第 4 期 統合的海洋管理学プログラム

履修許可証

統合的海洋管理学プログラムへの履修を許可します。

氏名（フリガナ）： _____

所属研究科・学府： _____ 研究科・学府

専攻： _____ 専攻

学籍番号： _____

所属での研究等のテーマ： _____

プログラム履修登録番号： _____

(プログラム学務委員会が記入します)

平成 年 月 日

統合的海洋管理教育・研究センター

学務委員長

⑩

※注：写しを指導教員に渡し、原本は各自で保管してください。

平成 22 年度 第 4 期 統合的海洋管理学プログラム

修了申請書

私は、下記のとおり、統合的海洋管理学プログラムの修了要件を満たす見込みですので、プログラムの修了を申請致します。 ※〈 〉内は該当を丸で囲むこと。

氏 ^(ふりがな) 名 : _____ ※楷書で記入 〈男・女〉

(ローマ字) : _____ ※ブロック体で記入

申請年月日 : 平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日

修了予定年月日 : 平成 _____ 年 _____ 月 _____ 日

プログラム履修登録番号 : _____

修了証番号 : _____ ※センター事務室で記入

所属研究科・学府・専攻 : _____ 研究科・学府 _____ 専攻 〈修士・博士〉

指導教員 : _____

学籍番号 : _____

生年月日 : 〈昭和・平成〉 _____ 年 _____ 月 _____ 日

所属での研究等のテーマ : _____

プログラム特設科目		
科目名	履修時期	
統合的海洋管理学Ⅰ	平成 _____ 年度	後学期
統合的海洋管理学Ⅱ	平成 _____ 年度	前学期
プログラム関連科目		
	平成 _____ 年度	前・後
	平成 _____ 年度	前・後
	平成 _____ 年度	前・後
	平成 _____ 年度	前・後
	平成 _____ 年度	前・後
ポスターセッション ※ 修了年次に実施する。	平成 _____ 年度	後学期

【資料1】平成22年度（第4期） 統合的海洋管理学プログラム授業科目一覧

1. プログラム特設科目（必修） （※科目詳細は海センターにお問い合わせください。）

科目コード	科目名	設置研究科・学府名	単位	教員	開講時期	開講日程	教室
FF20303	統合的海洋管理学Ⅰ	国際社会科学研究科	2	オムニバス	後期	月・4時限	教文ホール 中集会室
FF20304	統合的海洋管理学Ⅱ	国際社会科学研究科	2	オムニバス	前期	月・4時限	教文ホール 中集会室

2. プログラム関連科目（選択） （各研究科・学府において開講）…3科目6単位以上

（※科目詳細や最新情報については設置研究科・学府にお問い合わせください。）

科目コード	科目名	設置研究科・学府名	単位数	教員名
AFAM180	動物発生学演習	教育学研究科	2	種田保穂
AFAM260	地球化学演習	教育学研究科	2	津野 宏
AFAM121	地史学演習	教育学研究科	2	河潟俊吾
EM00209	臨海実習	環境情報学府	2	種田保穂/菊池知彦
FF20134	国際法Ⅰ	国際社会科学研究科	2	柳 赫秀
FF20135	国際法Ⅱ	国際社会科学研究科	2	荒木一郎
FF20305	沿岸域管理の法制度	国際社会科学研究科	2	来生 新
FF20306	国際海運政策特論	国際社会科学研究科	1	池田龍彦
FF20307	海の環境法	国際社会科学研究科	1	及川敬貴/加藤峰夫
FF10016	海洋政策・法制特論	国際社会科学研究科	2	中原裕幸
FF20311	水圏環境リテラシー	国際社会科学研究科	2	内田正洋
SC10003	海岸・海洋波動力学	工学府	2	鈴木崇之
SC10045	Advanced Theory of Earth Engineering	工学府	2	谷 和夫
GC10085	沿岸環境特論	工学府	2	佐々木淳
SC10004	数値流体解析学	工学府	2	佐々木淳
GB20116	リスクベースによる規則制定手法	工学府	2	角 洋一/荒井 誠 川村恭己
GB20038	海洋設計システム論	工学府	2	荒井 誠
GB20041	海洋宇宙システム工学輪講Ⅰ	工学府	2	複数
GB20129	海洋産業特論	工学府	2	小澤宏臣
GC10001	耐風工学特論	工学府	2	山田 均
EM24115	構造物安全設計学	環境情報学府	2	山田 均
EM11119	海洋生物多様性学	環境情報学府	2	菊池知彦
EM11111	立地群落学	環境情報学府	2	持田幸良
EM11120	海洋古環境学	環境情報学府	2	間嶋隆一
EM24106	システム数理モデル論	環境情報学府	2	村井基彦
EM36115	計算流体力学概論	環境情報学府	2	白崎実
EM60141	環境リスクの社会規制事例研究 (今年度休講)	環境情報学府	2	茂岡忠義
EM68113	生態リスクマネジメント理論	環境情報学府	2	松田裕之

【資料2】 平成22年度 プログラム特設（必修）科目 シラバス

プログラム特設科目は「統合的海洋管理学Ⅰ」「統合的海洋管理学Ⅱ」です。

プログラム関連科目（本要項の【資料1】を参照してください）については、各研究科・各学府のシラバスを参照してください。

科目名（英文名） 統合的海洋管理学Ⅰ [Integrated Oceanic and Coastal Management Ⅰ]							
担当教員（ローマ字表記） 菊池 知彦[KIKUCHI TOMOHIKO]							
開講学部等 開講時期	国際社会科学研究所 科 後学期 月	対象年次 クラス		単位数 時間割コード	2 FF20303	使用言語	日本語
特記事項							
<p>【授業目的】 科学的な理解と認識に基づく海洋の持続可能な開発・利用という理念と海洋の国際秩序を先導し、国際協調を促進するという理念の下で、「海洋の統合的管理のための基礎能力」の醸成を図る。本科目は、この目的を達成するために特別に企画されたオムニバス講義であり、海に関する学内外の多様な分野の専門家が最先端の知見を提供する。</p> <p>【授業概要】 第1回 海洋政策概論(1)－海洋基本法・基本計画等 第2回 海洋観測の現状と今後－JAMSTECの気候変動研究の取り組みから 第3回 海と人間生活 第4回 海と地球の歴史 第5回 海の物理 第6回 海の生物 第7回 海の化学 第8回 水産資源の利用と可能性 第9回 海底資源の利用と可能性 第10回 海のレジャーとリクリエーション 第11回 海上輸送の歴史と将来 第12回 造船技術の歴史と将来 第13回 湾岸開発の歴史と将来 第14回 海を教える 第15回 ポスターセッション 特別回 シンポジウム</p> <p>【履修目標・到達目標】 海洋の歴史や構造ならびにその利用・開発・管理・保全のあり方についての論点を提示することができる。 海洋の統合管理に関する分野・専門能力の多様性を捉えるとともに、かかる多様性をもつ可能性と課題について説明することができる。</p> <p>【授業方法】 担当教員による講義を基本とするが、受講者との討論を適宜織り交ぜる。</p> <p>【成績評価の基準】 レポート30点（ミニレポート及び最終レポート）、出席状況70点（出欠及びシンポジウム、討論への参加状況等）</p> <p>【教科書】</p> <p>【参考書】 海洋問題入門／來生新ほか：丸善，H19</p> <p>【履修条件及び関連科目】 履修条件： 統合的海洋管理学Ⅰ、Ⅱの順での履修を推奨する 関連科目： 統合的海洋管理学Ⅱ</p> <p>【備考1】 地球環境を大きく左右する海洋を様々な角度から学ぶ</p>							

科目名（英文名） 統合的海洋管理学Ⅱ[Integrated Oceanic and Coastal Management Ⅱ]							
担当教員（ローマ字表記） 菊池 知彦[KIKUCHI TOMOHIKO]							
開講学部等	国際社会科学研究所	対象年次		単位数	2	使用言語	日本語
開講時期	科 前学期 月	クラス		時間割コード*	FF20304		
特記事項							
<p>【授業目的】 科学的な理解と認識に基づく海洋の持続可能な開発・利用という理念と海洋の国際秩序を先導し、国際協調を促進するという理念の下で、「海洋の統合的管理のための基礎能力」の醸成を図る。本科目は、この目的を達成するために特別に企画されたオムニバス講義であり、海に関する学内外の多様な分野の専門家が最先端の知見を提供する。</p> <p>【授業概要】 第 1 回 海洋政策概論(2)－国連海洋法条約と二百海里問題 第 2 回 日本の海洋・沿岸域関係制度 第 3 回 海事活動の国際管理 第 4 回 海域(領海、排他的経済水域、大陸棚)の管理 第 5 回 海洋の安全保障 第 6 回 絶海孤島の海洋管理－無人島と海洋保護区 第 7 回 海事技術による環境影響の軽減 第 8 回 持続可能な水産業の姿 第 9 回 鉱業活動と環境への配慮(固体資源の開発) 第 10 回 深海探査技術の現状と将来 第 11 回 海を守る海洋土木・建設 第 12 回 沿岸域や海岸の利用と環境保全との現状 第 13 回 沿岸域の汚濁と環境再生 第 14 回 海洋環境の再生 第 15 回 総合討論</p> <p>【履修目標・到達目標】 海洋の歴史や構造ならびにその利用・開発・管理・保全のあり方についての論点を提示することができる。 海洋の統合管理に関する分野・専門能力の多様性を捉えるとともに、かかる多様性をもつ可能性と課題について説明することができる。</p> <p>【授業方法】 担当教員による講義を基本とするが、受講者との討論を適宜織り交ぜる。</p> <p>【成績評価の基準】 レポート 30 点(ミニレポート及び最終レポート)、出席状況 70 点(出欠及び討論への参加状況等)</p> <p>【教科書】</p> <p>【参考書】 海洋問題入門／來生新ほか:丸善, H19</p> <p>【履修条件及び関連科目】 履修条件: 統合的海洋管理学 I より履修し始めることを推奨する。 関連科目: 統合的海洋管理学 I。</p> <p>【備考 1】 地球規模で進行する海洋に関する様々な問題を知り、その関係の理解を深める</p>							

【資料3】 平成22年度 第4期 プログラム特設（必修）科目講義日程表

○第4期 統合的海洋管理学 I

区分	講義回	講義日	講義タイトル	担 当（敬称略）		4 時 限
				所 属(役職)	講師名	
0 序論	1	H22. 10/4	海洋政策概論(1) -海洋基本法・基本計画等	統合的海洋教育・研究センター 特任教授	中原 裕幸	○
I 海を知る	2	10/18	海洋観測の現状と今後 -JAMSTEC の気候変動研究の取り組みから	(独)海洋研究開発機構(JAMSTEC) 海洋工学センター 応用技術部 長期観測技術 G サブリーダー	石原 靖久	○
	3	10/25	海と人間生活	統合的海洋教育・研究センター 客員教授	來生 新	5時限 16:15-17:45
	4	11/1	海と地球の歴史	横浜国大 教育人間科学部 教授	間嶋 隆一	○
	5	11/8	海の物理	横浜国大 工学研究院 教授	伊藤 公紀	○
	6	11/15	海の生物	横浜国大 教育人間科学部 教授	菊池 知彦	○
	II 海を利用する	7	11/22 *	造船技術の歴史と将来	横浜国大 工学研究院 教授	荒井 誠
8		12/6	港湾開発の歴史と将来	横浜国大 国際社会科学部 教授	池田 龍彦	○
9		12/13	海底資源の利用と可能性	(独)石油天然ガス・金属鉱物資源機構 (JOGMEC) 資源技術部 深海底技術課長	岡本 信行	○
10		12/20 *	海の化学（I 海を知る）	横浜国大 教育人間科学部 准教授	津野 宏	○
11		H23. 1/17	海上輸送の歴史と将来	(株)商船三井 営業調査室 主任研究員	吉本 亜土	○
12		1/24	海のレジャーとレクリエーション	横浜国大 国際社会科学部 教授	加藤 峰夫	○
13		1/31	水産資源の利用と可能性	水産総合研究センター 中央水産研究所	牧野 光琢	○
III 海洋教育	14	2/7	海を教える	東京大学海洋アライアンス 特任准教授	福島 朋彦	○
	15	2/21	第3期修了生によるポスターセッション(於:図書館情報ラウンジ)	見学及びレポート提出(※切別途指示)		
特別		H22. 11/29	海センター主催シンポジウム	見学及びレポート提出(※切別途指示)		

* 都合により順番入れ替え

参考第3期 統合的海洋管理学Ⅱ（平成22年度前学期開講済）日程表

☆第4期統合的海洋管理学Ⅱ（平成23年度前学期開講予定）の詳細については、H23年3月までに決定予定。

部	講義回	H22年度	講義タイトル	担当（敬称略）	
				所属（役職）	講師名
V 海を管理する	1	4/12（月）	海洋政策概論(2) －国連海洋法条約と 200海里問題	横浜国大 統合的海洋教育・研究センター 特任教授	中原 裕幸
	2	4/19（月）	日本の海洋・沿岸域関係制度	横浜国大 統合的海洋教育・研究センター 客員教授	來生 新
	3	4/26(月)	海事活動の国際管理	国土交通省海事局 安全基準課長	久保田 秀夫
	4	5/10（月）	海域(領海、排他的経済水域・大陸棚) の管理	海洋政策研究財団 常務理事	寺島 紘士
	5	5/17（月）	海洋の安全保障	海上自衛隊幹部学校 第一教官室	八木 直人
	6	5/24(月)	絶海孤島の海洋管理 －無人島と海洋保護区	中部大学 国際関係学部 准教授	加々美 康彦
VI 海を守る	7	5/31（月）	海事技術による環境影響の軽減	横浜国大 工学研究院教授	角 洋一
	8	6/7（月）	持続可能な水産業の姿	横浜国大 環境情報研究院教授	松田 裕之
	9	6/14（月）	海底の地盤環境と資源開発	横浜国大 工学研究院教授	谷 和夫
	10	6/21（月）	深海探査技術の現状と将来	(独)海洋研究開発機構(JAMSTEC) 海洋工学センター 先端技術研究プログラム・ プログラムディレクタ	松浦 正巳
	11	6/28（月）	沿岸の利用と環境保全	横浜国大 環境情報研究院准教授	村井 基彦
	12	7/5（月）	沿岸海域の汚濁と環境再生	横浜国大 工学研究院教授	佐々木 淳
	13	7/12（月）	海洋環境の再生	NPO 法人 海辺つくり研究会	林 しん治
	14	7/21（水） *7/19の振替	海を守る海洋土木・建設	横浜国大 工学研究院准教授	鈴木 崇之
	15	7/26(月)	総合討論		

